

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (四国)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（事務局 長）	来客数の動き	・週末を中心に、インパウンド観光客を含め多くの人 でにぎわっており、消費マインドは高まっていると感 じる。ただし、商品構成、業種・業態により、売上の 好不調は大きく分かれて、事業者間での業績格差が広 がっている。
		商店街（代表 者）	それ以外	・プレミアム付商品券の発行が近付き、消費マインド が上昇してきているように感じる。
		一般小売店〔書 籍〕（営業担 当）	販売量の動き	・売上は店頭、外商共に、前年並みの状態である。
		コンビニ（店 長）	お客様の様子	・建設業関係者の来店が増え、今月の売上は先月に比 べて8ポイント増加している。
		乗用車販売店 （役員）	来客数の動き	・6月は前年と比べ、新車受注は横ばい、登録も伸び ていない。7月から新車投入があるため、期待してい る。
		タクシー運転手	お客様の様子	・乗車人数等は3か月前とほとんど変わらないが、売 上は約1割増加している。また、タクシーチケットの 利用頻度が高く感じる。
		通信会社（支店 長）	販売量の動き	・4～5月は低調であった売上が、6月は少し上向い てきている。
		美容室（経営 者）	来客数の動き	・梅雨で湿度が高いので、駆け込み客が多い。
		設計事務所（所 長）	それ以外	・大手だけでなく、地元の建設会社でも、仕事が飽和 状態になっている会社が複数ある。
	変わらない	商店街（代表 者）	お客様の様子	・飲食関連業が増加し引っ張っているが、客の絶対数 が減少しているため過当競争となり、厳しい状況と なっている。
		一般小売店〔生 花〕（経営者）	来客数の動き	・月前半は客数も少なく、繁華街を歩く人も少なか った。天候の回復や夜市が始まった後半は人出も多く、 来店数も伸びた。
		百貨店（営業担 当）	販売量の動き	・顧客は買いたい物しか買わないという状況にある。
		百貨店（販売促 進担当）	販売量の動き	・6月下旬まで前年を上回って推移したが、セール開 始が7月にずれ込んだことで、6月の前年実績確保は 難しい。
		スーパー（店 長）	それ以外	・来客数や客単価は前年並みで推移しており、景気が 悪いとは感じない。ただ、天候の影響もあるが、来客 数が伸びず、景気が良いと判断するには至らない。
		スーパー（企画 担当）	来客数の動き	・消費税増税の影響は一服し、原料の値上げや円安の 影響などで商品単価が上昇したことで、売上は上向い ている。しかし、客数は伸びていない。
		スーパー（財務 担当）	販売量の動き	・販売量がなかなか伸びない。
		コンビニ（総 務）	来客数の動き	・天候や気温に大きく左右される。梅雨に入り、再び 売上が前年割れしている。
		衣料品専門店 （経営者）	販売量の動き	・4～5月はある程度良かったが、6月は翌月にパー ゲンを控えているせいか、期待していたより悪かっ た。
		衣料品専門店 （総務担当）	来客数の動き	・単価上昇により客単価がプラスになっているが、来 客数が減少しているため、売上は前年を下回ってい る。
	乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・消費税増税による影響から抜け出せず、低迷を続け ている。個人消費の冷え込みが想像以上に長引いてい る。	
	乗用車販売店 （従業員）	お客様の様子	・賞与の支給額に企業間格差が広がり、賞与の結果が 客の消費に対する考え方にも反映されているように感 じる。	
	その他小売 〔ショッピング センター〕（副 支配人）	来客数の動き	・昨年は6月末にスタートした夏のセールを、今年は 7月スタートとしたため、6月末は苦戦している。7 月に入れば、元に戻るだろう。	
	観光型旅館（経 営者）	販売量の動き	・客の数は少し増えてきているが、売上はあまり増え ていない。当旅館のように客単価を高く設定してい るところは、かなり厳しい。	

		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・レストラン部門は、来客数がやや戻ってきているが、単価が依然として上昇していないため、景気が良くなったという実感がない。
		旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・国内個人旅行は堅調であるが、単価の高いロング方面を中心に海外個人旅行が回復していない。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・前月と比べて、引き合い数も増えておらず、変わらない。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新商品が出そろい、当面は一定の販売量が見込めるだろう。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・6月の売上は二けたの減少となった。その原因は、本場開催日が約一節分（6日間）少なかったためであり、同じ開催日数であれば、ほぼ横ばいであったと思われる。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・来客数、客単価共に低い状態が続いている。
	やや悪くなっている	コンビニ（店長）	販売量の動き	・6月に入ってから、売上高、来店客数、単価すべてが悪くなった。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数が少なく、販売量、客単価ともかなり下落している。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・6月は、土日の来客数が平日並みまで落ち込んでいる。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・1～3月に軽自動車増税の駆け込み需要が起こり、その反動減が4月以降続いている。
		その他小売 [ショッピングセンター]（支配人）	販売量の動き	・夏物衣料の売上が非常に悪くなっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・四国霊場開創1200年記念行事が5月で終わったため、6月はお遍路客が大きく減少した。お遍路客の収入が大きかったためその影響が大きく、街に出てそんな動いていないことから、しばらく厳しい状況が続くだろう。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・週末の来客数の動きが前年と比べて弱い。雨の日が多いなど天候による影響で来場者が減っている。
	悪くなっている	一般小売店 [酒]（販売担当）	お客様の様子	・料飲店への納品が減少している。消費者の財布のひもが固く、ディスカウント商品でないと売れない。
企業動向関連 (四国)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	食料品製造業（商品統括）	それ以外	・人手不足が深刻な状況にあり、人件費の高騰は必然となっている。業務用食品の好調な売上状況から、消費の活性化を感じる。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・5月に続いて6月も、全国的に小売店店頭の動きが活発である。特に、都内百貨店や京阪神など海外からの観光客が訪れる地区の小売店が順調である。
		木材木製品製造業	受注量や販売量の動き	・取引先の住宅契約件数が回復してきたとの情報もあり、見通しに明るさが出てきた。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギー買取価格の変動や規制があるにもかかわらず、大型の太陽光発電施設の建設をはじめ、受注量は計画通りに推移している。
		輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注単価は上昇している。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・得意先での販売価格がデフレ傾向から脱していない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新しい化粧品関係の受注が好調に推移しているのので、売上、景気共に良くなっていくだろう。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注状況に大きな変化は見られない。
		建設会社（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は減少しているものの、販売量は横ばいの状態である。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年度の工事の発注が、予定よりもやや遅くなっているため、受注は減少している。その受注量の減少額が小さいことに加え、前年度の手持ち業務がまだ残っていることから、売上は微減にとどまる。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・とにかく受注が伸びない。
		通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・前年度は料金制度の変更を受け受注数が拡大したものの、それも一巡した感があり、今年度の受注量は例年どおりの状況となっている。

	金融業（副支店長）	取引先の様子	・単価が上昇していることで売上が増加傾向にある企業が多いが、利益に変化はあまりない。	
	公認会計士	取引先の様子	・今月の決算、試算表の状況などから見ると、一部好転している企業もあるが、全体的には前年と比べ変化がない。	
やや悪くなっている	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・3か月前に比べ販売量の減少が見られる。ただし、季節要因の影響を除けば、減少幅は僅少である。	
	輸送業（支店長）	取引先の様子	・円安による調達価格の上昇から、事業の縮小や事業からの撤退が散見される。また、円安は原油価格にも影響し、燃料の高騰がみられる。	
	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・先月に引き続き、発送・到着貨物共に例年の取扱物量を大幅に下回った。特筆すべきは春先に長引いた天候の悪影響による青果物出荷量の減少であり、過去に例を見ないぐらいの大幅な減少幅となった。青果物のお荷量減少は、消費地への安定供給に支障を及ぼし、販売価格の高止まりを招いている状況にあり、消費者の購買意欲低下につながる。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用 関連  (四国)	良く なっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・派遣登録に来社する求職者が著しく減っている。現在所属する企業での勤務継続、もしくは正社員への間口が広がったことで転職に成功した事例が散見される。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人が順調であり、正規雇用は約6割ではあるものの、求人倍率も過去にない様子となっている。
	変わらない	人材派遣会社（営業）	雇用形態の様子	・求人企業は増加の兆しはあるが、求職者数は求人ニーズに比例して増えてはいない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・5月の新規求人数は、前年同月比27.7%減となっている。建設業を除いて、全般的に減少している。
		民間職業紹介機関（所長）	採用者数の動き	・企業訪問、就職セミナー等において、来春の採用人数を確認しているが、前年と変わらないという企業が多い。また、該当する学生がいなければ、採用人数を減らすという企業も多く見られる。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・求職者が減少している。求人数は増えているが、ミスマッチが目立ち、就労につながらない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・車が売れていないとの話を聞くほか、建設中の建物や新規出店も止まっている。求人広告は好調を維持しており、企業は人手確保には動いているが、販促の動きは鈍い。
職業安定所		それ以外	・5月の有効求人倍率は1.07倍で、3か月前に比べ0.13ポイント低下している。	
悪くなっている	-	-	-	